

今夏の思い出

田中薫

7月17日・18日の二日間をかけて、長年の夢であった自転車「びわー」に友人夫婦と家内の4人で挑戦してきました。

17日は朝6時に我が家を出発。



コースは北周りコースで、1日目の最終ゴールは近江舞子にある大塚製薬グループの「琵琶レークオートツカ」で、そこまでは約100kmありました。

早朝は涼しくて、すこぶる快調でペダルも軽く、長浜、びわ、湖北、木の本、大音、飯の浦を越えて、その後バイパストンネルを避けてわざわざ琵琶湖の湖周を大周りしたのにもかかわらず、塩津の「水の駅」に、なんと8時前に到着。

「びわー」最大難所の岩熊トンネルの坂道に。流石に、ひと汗かきましたが、なんとか無事に乗り越えて、今度は長い下り坂を一気に駆け下り、奥琵琶湖へ。

大崎観音にお参りして、予約した今津のホテルの昼食バイキングへ。

たの時間で、一生涯があつた「びわー」の川端へ。江を見学。飛び込み、実に行ったのすが、よく針江地区のボラン、ティンガイさんの案内で、約2時間をかけて、川端（かばた）めぐりをしました。家の地下から自噴する地下水の水温は年中15度、川には梅花藻が咲き、鯉が泳ぎ、きれいな水に恵まれていて、どこかのどかで、宇賀野によく似た環境の針江地区でした。



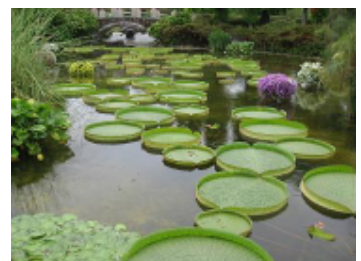
近江舞子の「琵琶レークオートツカ」には、5時頃に到着。夕食は琵琶湖の浜辺にある、海の家みたいなところ、安上がりのかしらと中華どんぶりをあてに、缶ビールで乾杯。9時に就寝。

翌朝5時前に起床、琵琶湖の東から上る朝陽を初めて経験したあと、部屋で「なでしこ」の試合を観戦。信じられないような幕切れに、久しぶりに「スツキリさわやか」二日目は、琵琶湖大橋を経由し

て、草津の大風車と、スイレンで有名な水生植物園を見学してきました。

琵琶湖に群生している蓮も、真つ盛りでとても感動的でした。

昼食後は能登川、新海浜を経由して彦根、米原、近江へと



170kmのびわーを完走。この歳になっても、意外と頑張ってくれた健脚に感謝しつつ、また機会があれば走ってみたいと思っております。



一難越えれば、また一難。それが人生の旅というもの。それが渡世の習いというもの。



生き甲斐は！その難関を果敢に乗り越え、怯まず、屈せず、どこどこまでも生きぬいてゆく！その道中で感得するもの！。

寺川幽響先生

題材法話

前号からのつづき

広由本願力回向
為度群生彰一心

この2句は、阿彌陀様の
願力の回向によつて、あ
らゆるいのち（群生）が救
われるのは、ただ信心一
（一心）であること、心を
親菩薩様が明らかにされ
こと、菩薩様が明らかにされ
〇絶対他力の救い

え「である」とも「仏さまの教
ありとす。ため、の教え」でも

一人が仏となる「だけ、この私
なく、一一切の衆生とともに

うと救われていく「最大の仏教を願
しさがありません。

「浄土論」の中で、「あま
ねくもろもろの衆生とともに
に、安樂國に往生せん」とも
高らかに宣言されているの
です。

少・善惡に
係なく、すべ



てのものが等しく救われる
のは、「信心一つ、救いさ
ある」からだと示して下
つて、いるのです。

名号には如来の一切の功徳
が、そのなわつており、そ
無阿彌陀仏に、おま

つ「が往生の要、信心一
示されるので、さら

煩悩の心で作り出すもので
なく、如来の方から回向さ
れたものであり、絶対

他力の救いである、絶対
て下さつた世界、を

は、最後の6句ですが、これ
トであり、如来の信心を得
た者が、必然的に与えられ

る三種の利益について、天
親菩薩様が述べておられる
ことを、親鸞聖人が詠われ
ています。

〇三つの利益
まず一つ目の利益は、
帰入功徳大宝海
必獲入大会衆数
功徳の大宝海（南無阿彌
陀仏）に、すべてを任せ（帰
入）れば、現世において必
ず仏となれる仲間の数（大

会衆数）に入ることができ
る、本年10月に、親鸞聖人
750回大遠忌法要にバス
で団体参拝します。

と乗込み、いざ出発とな
ります。

乗った時点ではあくまで
バスの中ですが、けれども
必ずご本山に到着すること
です。

阿彌陀様にすべてをおま
かせ、人間的な命がある
も、が、必ずさりとて、ま
すが、必ずさりとて、ま

利益が得られるのです。
得至蓮華藏世界
即証真如法性身

お浄土（蓮華藏世界）に
至れば、すぐさま阿彌陀
まと同体（真如法性身）の
最高のさとりを得ることが
できる。

に生まれたならば、即座に
阿彌陀如来様と同
じさとりを得るこ
とができるという
のが、二つ目の利

の



益です。
もに「仏の教え」とも
あるのです。

遊煩惱林現神通
入生死園示心化
さとりを得たならば、再
び娑婆世界（煩惱林）で自

由に迷いの衆生を救済する
は、た（神通）を得て、
娑婆（生死園）に還つて、
迷える人達の状況に、応じた
救いの働き（応化）をする
ことが出来る。

浄土真宗の真骨頂が、こ
の三つ目の利益です。
お浄土に生まれて阿彌陀

様と同体のさとりを得たも
のは、再びこの娑婆世界に
還つてきて、自由自在な
たらきで衆生をみちびき、
仏道に向かわせることがで
きるというのです。

切の衆生が救われていくこ
とにあり、仏教が利他の宗
教と言われる所以でありま
す。

世の中を、縦横無尽に活動
して回る姿を思い浮かべて
みたいものであります。

5月例会より